

### Wave Energy、分散型パワコン用高圧キュービクルなどP R 溝口社長「コンパクトな技術力ある装置実現」

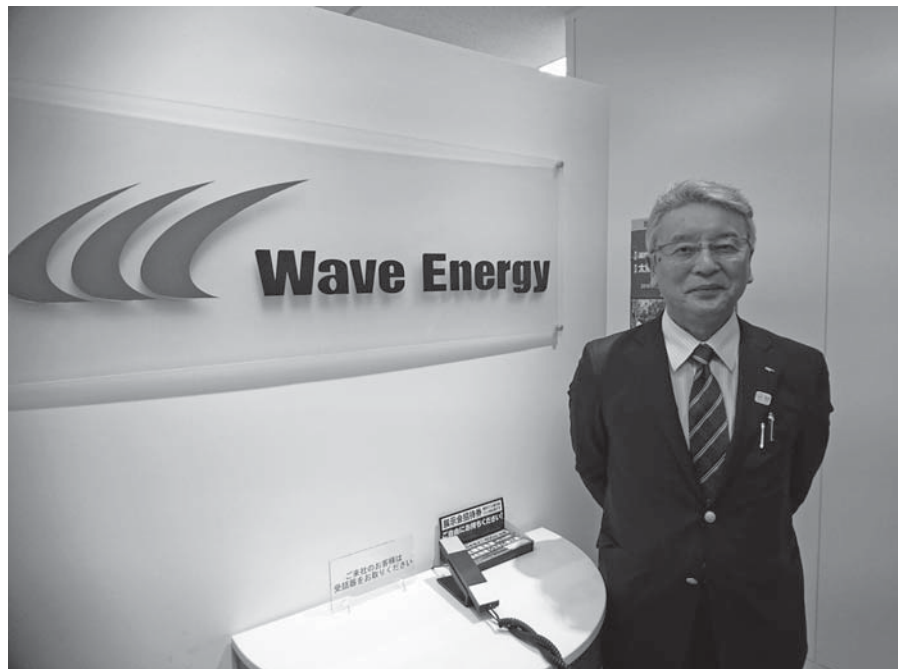
Wave Energyは、分散型パワコン用高圧キュービクル「SOLAR SPEC MINI T」や工場やビルなどの自家消費型太陽光発電システムへの受配電系統改造に適した壁掛型高圧分岐盤などの製品を、スマートエネルギーWeek内の第10回太陽光発電システム施工展内の自社出展ブースで紹介する。出展場所・ブース番号は東3ホールのE22-8。1972年より受配電盤の製造・販売事業を手掛けている同社では、ここ数年はF I T (固定価格買取制度)の施行を受け太陽光発電向けの製品受注も重ね事業を拡大している。同社の溝口昭次代表取締役社長は、「各種受配電盤に多くの引き合いを頂き、弊社の自社工場をフル稼働させ製造を行っている」と話す。太陽光発電など今後のニーズの動向や自社の取り組み、展開について溝口社長に伺った。

——太陽光向けを含め貴社の製品へのニーズはどのように拡大していますか

溝口 弊社では工場向けの配電盤の製造・販売事業をこれまでメインに手掛けてきた。ここ数年はF I Tの施行を受けて太陽光発電事業向けの電力連系用の受配電盤の製造・販売に注力している。一方で従来からの工場向けの受配電盤事業は、とくに今が引き合いのピークとなっている印象だ。バブル期に設置されたものが20~30年程度経過し更新時期を迎えているほか、データセンターや半導体工場などの新たな建設が各地で行われており、こうした方面から受配電盤製品への引き合いを受け、香川県にある弊社の工場もフル稼働している。また、自社の工場屋根のスペースを活用した太陽光発電事業も弊社では行っており、こうした設備を活用した技術的な検証も実施している。

——F I T価格の低下も進む中で、貴社ではどのような製品展開、提案を進めていますか

溝口 F I Tの価格は年々低下しており、我々のお客さまである施主の方々やE P C工事業者の方々が、F I T価格低下が進む中でも太陽光発電事業を引き続き選択肢として手掛けていかれるかを、我々として慎重に見ていく必要がある。新たな14円/kWhという価格になると様相が変わ



溝口昭次氏

り、メガワタスの案件数は減ってくるのではないかと。ただ、現在まだ未稼働の状態の計画もまだ残っており、こうした案件から頂く引き合いへ今後1、2年は対応に注力していく必要がある。今後はF I Tの入札対象となる事業が500kW以上にまで範囲が拡大するが、弊社では500kW未満の分散型P C S対応案件向けに適用できる製品も提案を行っている。今回展示する製品のうち「SOLAR SPEC MINI T」は、太陽光発電サイトのモジュール下部に設置でき、2トントラックに搭載し運搬できるなどの強みを持ち、コンパク

トな非常に技術力のある装置となっている。今回の展示品は、従来からさらに標準化の思想を徹底し、分散型P C S台数の変更などにより入力回路数の変更などが発生した場合でも、集電ブレーカーの設置の余裕内であれば、客先からの要望・ニーズへ柔軟に対応できるようにしたのが特徴。外形なども標準化の一環で従来から一部見直しを行っている。また、F I Tによる売電ではない太陽光発電の自家消費に向けた案件からの受注も頂いている。受注は増えており、また今後さらに増やしていく必要があると考えている。

——太陽光以外の再生可能エネルギー分野での取り組みは

**溝口** 太陽光以外の再生可能エネルギーについて、地熱やバイオマス発電向けの受配電盤の製造もこれまで手掛けている。バイオマス案件では、1件当たりの発電規模が大きく特別高圧分野の技術を持っていないと受配電盤の製造ができないが、そうした特別高圧案件にも弊社は対応できる。入札制度も採用されている中で、バイオマス発電事業のプロジェクト数自体は、そこまで多くはないが、その中でどれだけ弊社がシェアを拡大していけるかがカギとなる。

——国内のほか、海外での事業展開はどのようなことを検討されていますか

**溝口** 海外での事業展開についてはまだまだ種まきの段階にあるが、インドにエンジニアリング部門の拠点を構えている。海外での弊社製品の販売ルートが確保できるようであれば、海外での工場建設についても検討していく必要があると考えている。海外ではインド、またイ

Wave Energyの沿革

1972年11月	広島県庄原市に庄原電機株式会社設立
1979年7月	三次電機株式会社(現:ミヨシ電子株式会社)制御盤部門を分離し庄原電機株式会社と統合させ新会社前川電機広島製作所を設立
1980年9月	丸亀営業所を新設
1983年12月	前川電機広島製作所株式会社から株式会社ヒロセーに社名変更
1992年1月	詫間工場竣工(現:四国事業所 第1工場)
2006年1月	本社を詫間工場(現:四国事業所 第1工場)に移転及び東京支社(現:東京本社)開設
2011年3月	福山エコオートサービス株式会社(福山通運株式会社との共同出資)を設立
2012年7月	うどん県電力株式会社(地元有志企業との共同出資)を設立
2014年9月	株式会社ヒロセーから株式会社Wave Energy に社名変更社名変更と同時期に本社を東京に移転
2015年11月	Wave Energy Engineering Services Pvt.Ltd.をインドに設立
2016年3月	四国事業所 第2工場 竣工
2016年8月	中部支社を開設
2018年3月	四国事業所 第3工場 竣工
2018年7月	関西支社を開設

ンドネシアといった地域に注目しており、インドネシアでは現地法人を構えている。インドネシアを含めて東南アジアでの太陽光発電の需要があり、こ

うした地域でも太陽光電力を自家消費用途に使いたいというニーズが今後はさらに出てくると考えている。

**モジュール下部でも設置可能な「SOLAR SPEC MINI T」**  
太陽光自家消費システムなども提案

Wave Energyが今回展示・紹介する製品のうち、分散型パワコン用高圧一体型キュービクル「SOLAR SPEC MINI T」は、2018年より販売を開始した。分散型パワコンに対応した交流集電盤、変圧器、送電器を一体化したキュービクルで、複数台を組み合わせた大規模な太陽光発電所にも設置が行える。300kVA、330kVA、500kVAの機種をラインアップしており、全ての機種に送電盤内蔵タイプ(高圧地絡過電圧継電器付)と、サブタイプ(送電盤内蔵タイプと併用)の、2種類のタイプがある。今秋には、750kVA、1000kVA機種もリリースされる予定。当日の会場で展示を行うのは、1500V対応500kVA機種となる。

SOLAR SPEC MINI Tは、高さが1,200mm以下のため、一般的なキュービクルよりもモジュールに影がかかりにくく、より自由自在に配置できる。太陽電池モジュールの下のスペースへの設置も可能なサイズとなっている。2~3トン車での運搬が可能なコンパクト設計



SOLAR SPEC MINI T の設置事例(Wave Energy提供)

で、ゴルフ上のカート道などのような細い道、また複雑な地形での設置にもフレキシブルに対応できる。SOLAR SPEC MINI Tの技術は特許も出願している。Wave Energyでは同製品のほかにも、自家消費型太陽光発電システムなどの各種製品を展示会ブースにて紹介する。